

出題分析			
試験時間	60分	配点	50点
		大問数	4題
分量 (昨年比較)	[減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化] 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年は、新聞やニュースなどで扱われる“科学”の知識問題や、知識がなくとも文章から解答可能である読解問題などが多く見られる。しかし今年も、本学の伝統ともいえるそのような問題は皆無と言ってよい内容であった。例年よりも本文は読みやすく、また、論述も基本的な知識を問うものであり、極端に易化。過去問をもとに万全の準備をしてきた受験生ほど拍子抜けに感じたものと思われる。他の科目との兼ね合いもあるが、今後もこの傾向が続くとは考えにくく、来年度以降は従来の難易度に戻る可能性を考慮に入れておきたい。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	鉄・結晶	空所補充、論述いずれも基本的な知識を問うものであった。計算問題は問3の体心立方格子の密度計算のみで問われていることは基本的だが、とにかく計算に時間を要するうえ、計算ミスも起こしやすいため注意が必要であった。2020年第II問と類似している。 空所補充1題、論述1題、計算1題、反応式1題	易
II	合金	各種合金の成分元素から、その性質と主な用途を問う問題。選択肢から選ぶ形式で、平易であった。入試ではあまり出題が見られないため、やや悩むかもしれない白銅も残った選択肢を選べば解答できる。 選択1題	易
III	炭化水素	問1アは一見すると何を答えていいか悩む。イは長さの大小関係は覚えていても、具体的な数値までは覚えていない受験生が多かったと思われる。問2の異性体の数え上げはシストランス異性体の存在に注意が必要であった。 空所補充1題、異性体1題、構造式2題、選択1題	やや易

設問別講評			
IV	炭酸・カルシウムの化合物	鍾乳洞は2019年も題材にされたなじみのある内容である。温暖化も2021年に出題されている。問2の大気中の二酸化炭素の存在比は覚えていないと解答は難しい。問4はイオンを含まない化学反応式で書けるものを、イオンを含む形で書かせるうえ、化合物の名称でなく、水溶液の名称を答えるよう指示しており、困惑した受験生もいたのではないだろうか。 空所補充1題、選択1題、反応式2題	易

合格のための学習法
参考書や問題集は標準レベル～ややハイレベルを扱うもので十分である。ただし、知識問題などで1番はじめに出てくる知識ではなく、2番目3番目に出てくるものを問うことが多いので、細かいところまでしっかり読み込んでおきたい。また、今年度は出題がないが、近年さまざまな大学入試でメインコンセプトの一つにされている、情報処理能力を問う出題も多い。対策としては、『どうやると解けるのか』を学ぶだけでなく『どう考えるのか』を普段から意識していくことである。問題文のどこに着目し、それと持っている知識をどう結びつけば解答に至れるかを意識してみしてほしい。問題数の割に試験時間が短めであるため、過去問でトレーニングを行うことは非常に重要である。